

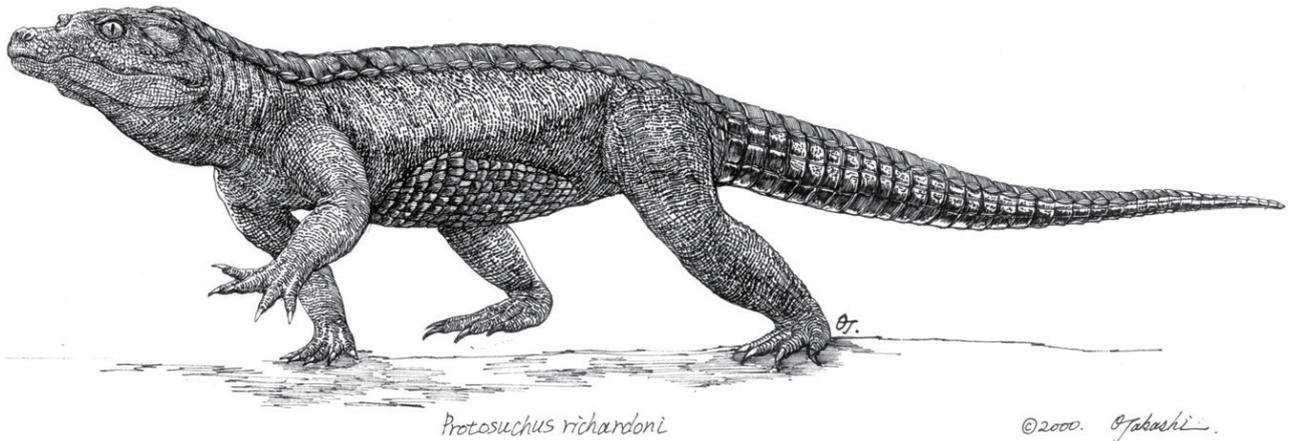


ワニの仲間 プロトスクス

Protosuchus richardsoni

古生物について知りたい時、形は化石から推測します。一方、動きは現生生物の比較によって考えます。ここから推測できる古生物の動きを考える、からくり仕掛けのペーパークラフトです。大昔の暮らしを想像してください。

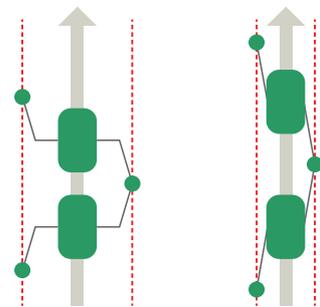
イラスト：小田隆



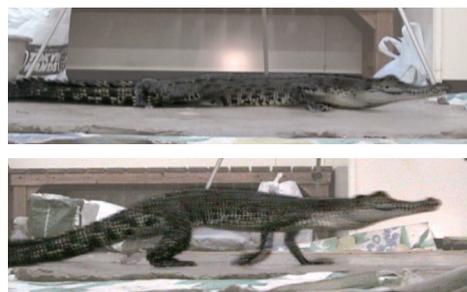
Protosuchus richardsoni

©2000. Ohtsuka, L.

熱帯の水辺に暮らし強靱な顎を持つ凶暴なハンターであるワニ。その祖先が現れたのは三畳紀です。約2億5千万年前のペルム紀末の大絶滅を生き延びた主竜形類からワニの仲間が一気に多様化しました。恐竜全盛時代の前は、ワニこそ陸に水辺に広く適応してさまざまな形に進化し、栄えた脊椎動物だったのです。ジュラ紀始めに現れたプロトスクスは、四肢をまっすぐに伸ばし素早く陸上を走り回っていたと考えられています。当時のワニの仲間の足跡からの推測です。現存のワニは、足を横に突き出して這っていますが、驚くことに立って歩くこともできます。つまり半水棲にもどったワニが水辺での生活に適応し、這い歩きや半直立歩行をおぼえたのです。現存のワニの足跡の歩幅を調べ、昔のワニの動きを知る手がかりを得ることができました。立ったり這ったりするプロトスクスを作り、長い間変わらぬ形で生き延びてきたたくましさなるほど感じてください。



足のつきかたと足跡の関係。足がまっすぐに伸びていると左右の足跡の幅が狭くなる。左の図は三畳紀のワニの仲間の足跡化石(www.gutenberg.orgより)で、幅が狭く直立の姿勢で歩いていたことがわかる。



イリエワニの這い歩きと半直立歩行

取材協力・写真提供：
東京大学総合博物館
久保泰研究員

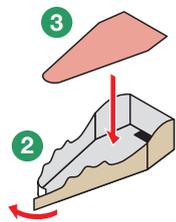


プロトスクス 組み立て説明図

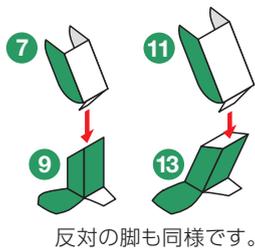
- 切り取り線にそって、カッターナイフやはさみでていねいに切り抜きます。
- 折り線は、鉄筆や芯を出していないシャープペンシルなど、適度に先のとがったものを定規にあて、まっすぐ線を引くようにして筋をつけてから折り曲げます。
- すべての折り線をいったん折り曲げてから、説明図にしたがってのりづけして組み立てます。細かい部分の組み立てには、ピンセットを使うと便利です。
- のり付けには木工用接着剤を使います。いったん小皿に出してから、つまようじを使って薄くむらなく塗りましょう。



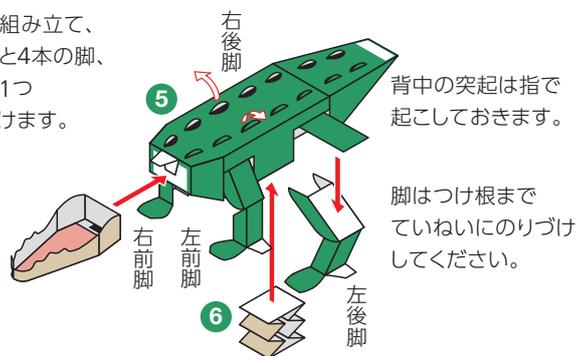
1 下アゴを組み立て、口の中に舌を貼ります。



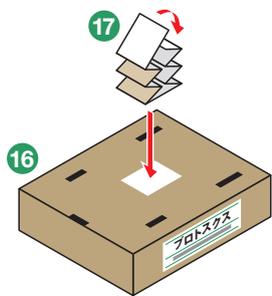
2 前後左右に注意して、4本の脚を組み立てます。



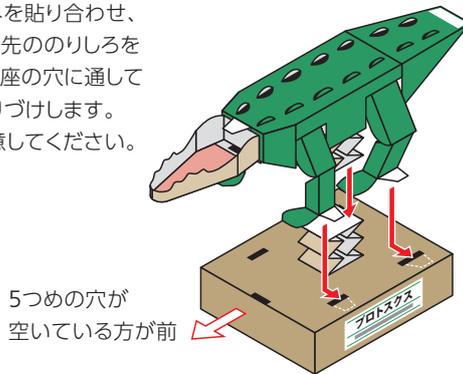
3 胴体を組み立て、下アゴと4本の脚、パネを1つ取りつめます。



4 台座を組み立て、もう1つのパネをのりづけします。



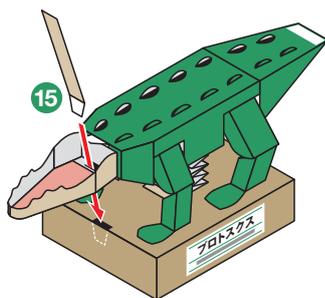
5 パネとパネを貼り合わせ、4本の脚の先ののりしろを1つずつ台座の穴に通して内側でのりづけします。前後に注意してください。



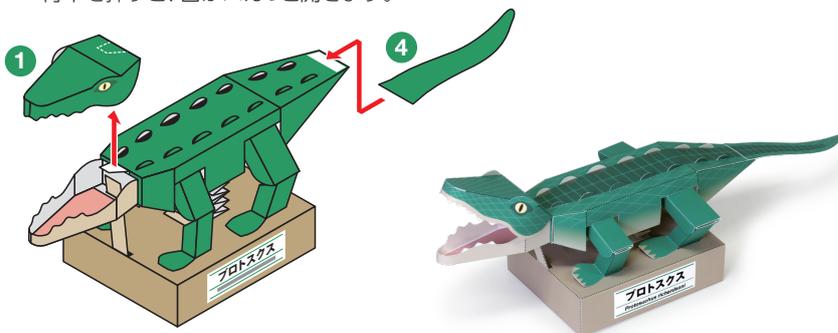
6 強度を増すために15の両端を折り曲げてのりづけします。



7 15を下アゴの穴を通して台座の穴に差し込み、内側でのりづけします。



8 首ののりしろを頭のつけ根の中央に裏側からのりづけし、尾を貼りつけて完成です。背中を押すと、口がパカッと開きます。



デザイン：坂 啓典(図工室)